



札幌地区少年サッカー連盟 広報紙
2023. 5. 30 No. 2

きずな



お知らせが遅くなってしまい申し訳ありません。
札幌地区少年サッカー連盟の総合開会式が4年ぶりの開催となり、4月29日、美しく芝が整備された厚別公園競技場で行われました。

札幌地区所属全チームの選手の中から、高学年を中心にたくさんの選手が参加し、堂々とした行進を見せてくれました。3年間見ることのできなかつた全チームに揃っての前進に保護者の皆さんで埋まるスタンドからは感嘆の声があがっていました。



札幌地区少年サッカー連盟の川口谷 正会長からは、サッカーの素晴らしさとサッカー選手としての心構えについてお話をいただきました。サッカーは世界 200 を越える国と地域で楽しまっているスポーツであり、昨年のW杯で強豪のドイツやスペインに勝利した感動や「三苦の1mm」から学ぶことの

できる最後まで諦めない姿勢を含め、サッカー選手が頑張れば、世の中が元気になるというメッセージをいただきました。指導者や保護者に対しても、叱らずに褒めて伸ばすことを共に心がけていきましょうと呼びかけがありました。そして、チームの中でいじめは絶対に起こしてはならないこと、道具を大切にし、サッカーで汚したソックスやパンツは、家の人に任せず、自分で洗うべきだということを教えていただきました。

今年の選手宣誓は、札幌中央6年の八戸陸汰選手と佐藤優桜選手でした。八戸選手からは悲願の全道大会出場権を獲得したものの新型コロナウイルス感染対策のために大会開催が見送られたことで悔しい思いをした先輩たちの思いが、佐藤選手からは女子選手が気持ちよく活動に参加し、さらにサッカーを楽しんでいけるような環境になることへの願いが語られました。

3年間たくさん我慢してきた中で、今こうしてサッカーができることに感謝し、チームのスローガンである「美しく勝て」のもとフェアプレーで活躍していくことが力強く宣言されました。素晴らしい選手宣誓にスタンドや各チームの指導者、来賓の方々からは盛大な拍手と歓声が起こりました。





続いてはレクイベントです。各チーム3名のリフティング名人が厚別の芝生に広がりました。スタンドからは、チームメートへの熱い声援が聞こえてきます。1度でもボールを落としたら、そこで敗退。課題は段々と難しくなっていきます。

- 今年度のお題**
- ①フリー（30秒間）
 - ②インステップ交互
 - ③インサイド
 - ④アウトサイド
 - ⑤ヘディング



数名に絞られた中でのアウトサイドやヘディングでは、素晴らしい技能に対して、チーム関係なく歓声や拍手、どよめきが起きました。ハイレベルな戦いを制し、優勝したのはFibraFCの中田楓之丞選手（写真右）でした。話を聞いてみると、リフティングの練習は毎日、できる日は1時間以上という日もあるそうです。

ボールの中心を捉えること、リフトする高さを安定させることが長く続けるコツだそうです。毎日の努力の積み重ねが素晴らしいですね。



続いてはリレーです。400mのトラックを一人100mずつの4人でバトンをつなぎます。U-12リーグ戦の同じブロックに入ったチームで戦います。スピードとチームワークの勝負です。ブロック1位になると、タイムが発表され、全チームの中で最も速いチームが決定します。



優勝したのはK.E.CLUB FIELDSでした。記録は59秒75での優勝でした。一人一人の力強い走りで見事なチームワークによるバトンパスが発揮された優勝でした。おめでとう！！

リレー大会ベスト3！

①K. E. CLUB FIELDS	0' 59" 56
②札幌藻南	0' 59" 75
③TIPS	1' 00" 43

こうして開会式は終了しました。選手の皆さん、八戸選手、佐藤選手の宣誓の通り、サッカーができる喜びを忘れず、我慢を強いられながらも頑張ってきてくれた先輩たちの思いも忘れず、会場にいる全ての人の笑顔を生むような素晴らしいプレーをどの大会でも見せてくださいね。